

国語科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ○言葉の働き ○話し言葉と書き言葉 ○漢字 ○語彙 ○文や文章 ○言葉遣い ○表現の技法 ○音読・朗読 (2) 情報の扱い方に関する事項 ○情報と情報の関係 ○情報の整理 (3) 我が国の言語文化に関する事項 ○伝統的な言語文化 ○言葉の由来や変化 ○書写 ○読書	○長音・促音・拗音、助詞の「は」「へ」「を」などを正しく使うことに課題があります。 ○本を読むことが好きな児童が多いです。	○本を読むことが好きな児童が多いです。 ○正確に音読できる児童が多いです。 ○長音・促音、助詞の文中での使い方が定着していない児童がいます。	○幅広く読書に親しんでいる児童が多いです。 ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句を更に増やす必要があります。	○「漢字を読む」「漢字を書く」の項目は、目標値をやや上回っており、前学年に配当されている漢字の読み書きが定着しています。 ○「言葉の学習」の項目は、目標値をやや上回っていますが、主語と述語の働きの理解については、課題があります。	○「漢字を読む」の項目は目標値を上回っていますが、「漢字を書く」の項目は、目標値を下回っています。 ○「言葉の学習」の項目は目標値をやや下回っており、語彙を更に豊かにする必要があります。	○「漢字を読む」の項目は目標値を下回っていますが、「漢字を書く」の項目は、目標値をやや上回っています。 ○「言葉の学習」は目標値を上回っており、思考に関わる語句の量は十分身に付いています。
思考力・判断力・表現力 A 話すこと・聞くこと ○話題の設定、情報の収集、内容の検討 ○構成の検討、考えの形成（話すこと） ○表現、共有（話すこと） ○構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと） ○話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと） B 書くこと ○題材の設定、情報の収集、内容の検討 ○構成の検討 ○考えの形成、記述 ○遂行 ○推敲 ○共有 C 読むこと ○構造と内容の把握 ○精査・解釈 ○考えの形成 ○共有	○友達の話聞いて質問をしたり、感想を言ったりすることが出来ます。 ○習ったひらがなを使って、経験したことや思ったことなどを簡単な文にして書くことが出来ます。	○自信のなさから、発言の際に声が小さくなる傾向があります。 ○一部の児童を除いて、書く視点を提示すると、進んで書くことが出来ます。 ○自分で書いたものを見直す習慣を付ける必要があります。 ○物語の学習では、想像を広げながら読むことが出来ます。	○目的意識、相手意識をもって話す習慣が身に付いてきました。 ○自分の考えをもつことや話すことに課題があります。 ○「はじめ・なか・おわり」を意識して書くようとしています。 ○「楽しかった」「うれしかった」など限られた言葉で気持ちを表す傾向があります。	○「物語の内容を読み取る」の項目は目標値を上回っており、登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉える力が身に付いています。 ○「書くこと」の項目は、目標値を上回っていますが、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書くことについては課題があります。	○物語の内容を読み取る」の項目は目標値を上回っており、登場人物の気持ちや行動を叙述を基に捉えることが出来ます。 ○「文章を書く」の項目は目標値を下回っており、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことについては課題があります。	○「物語の内容を読み取る」の項目は目標値を下回っており、登場人物の心情について、描写を基に捉えることについては課題があります。 ○「文章を書く」の項目は、目標値を下回っており、自分の意見を支える理由を明確にして書くことについては課題があります。
学びに向かう力、人間性	○どんな学習にも興味をもち、進んで取り組もうとする児童が多いです。	○概ね意欲的に学習に取り組もうとしています。	○比較的意欲的に読んだり、自分の意見を話したりします。	○比較的意欲的に読んだり、自分の意見を話したりします。	○全体場で発言することに対して抵抗のある児童がいますが、国語教材への関心は高いです。	○意欲的に学習に取り組める児童がいる一方、文章量の多さに戸惑いを感じている児童も多くいます。

2 課題と改善策、検証方法

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
課題	○話すときに正しい声の大きさを話すが苦手だと感じている児童がいます。 ○長音・促音・拗音、助詞の「は」「へ」「を」などを正しく使うことに課題があります。	○自分の思いや考えを話すことについて、個人差があります。 ○自分が書いたものを見直す習慣が定着していないことから、漢字の書き間違いなどが多く見られます。	○話すことには個人差があり、自分の考えをもてない児童や言えない児童が見られます。 ○「楽しかった」「うれしかった」など限られた言葉で気持ちを表す傾向があります。	○自分の考えと、それを支える事例との関係を明確にして書くことについて課題があります。	○話し手が伝えたいことの中心を捉えたり、意見の共通点に着目して考えをまとめることについて課題があります。	○自分の意見を明確にして書くことについて、課題があります。
改善策	○掲示物「声のもののさし」を活用し、様々な学習において、適切な声の大きさを意識できるようにします。 ○MIMの学習に継続的に取り組み、言葉の力を伸ばすことができるようにします。 ○文を書く際に、正しく使えるように、繰り返し指導していきます。	○二人組で話す、グループで話す、学級全員の前で話すなど形態を工夫し、段階を踏んで指導していきます。 ○ノートや作文を書かせた際は、書いたものをまず見直すようにさせ、文章の中で正しく使えるように指導していきます。	○書いた文章を推敲したり、みんなで読み合ったりするなど、考えを共有する機会を多くします。 ○気持ちや性格を表す語句の量を豊かにするため、読書に集中できる時間をできるだけ確保します。	○文章を書く機会を様々な学習で設定し、書き方を指導していきます。 ○書き終わったら、自分で見直しをしたり、教師が添削したりして、よりよい文章にしていきます。 ○家庭学習の日記において、添削をして返却したり、必要に応じて書き方を授業で指導したりします。	○メモの取り方(短文で簡条書きにしたり、画数の多いものは平仮名にしたりして、文字を省略するなど)を授業で取り扱い、指導します。 ○自他のメモを紹介し合い、良い書き方などを学び合う機会を設けます。	○文章を書く機会を様々な学習で設定し、事象を説明したり、意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動を取り入れていきます。 ○説明文や物語文で、段落ごとの見出し文を書かせるなどして、文章の構成の仕方を身に付けさせます。
検証方法	○授業中や様々な学習の際に確認します。 ○正しく使えているか、ノートや作文を見て確認します。	○二人組の対話やグループでの話し合いの際、机間指導を行い、確認します。 ○ノートや作文の中で正しく使えているかどうか見ていきます。	○小グループでの話し合いの際、机間指導を行い、対話の様子を確認します。 ○日記や作文、ノートなど、文章を書いた時に確認します。	○日記や作文など、文章を書いた際に確認します。	○学期中の聞き取りワークテストで状況を把握します。	○行事や日々の生活についての作文など、文章を書いた際に、できているかどうかを確認します。